

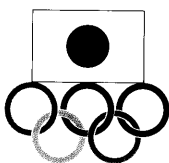
第14回アジア競技大会(2002/釜山)

報 告 書

THE 14th ASIAN GAMES BUSAN 2002

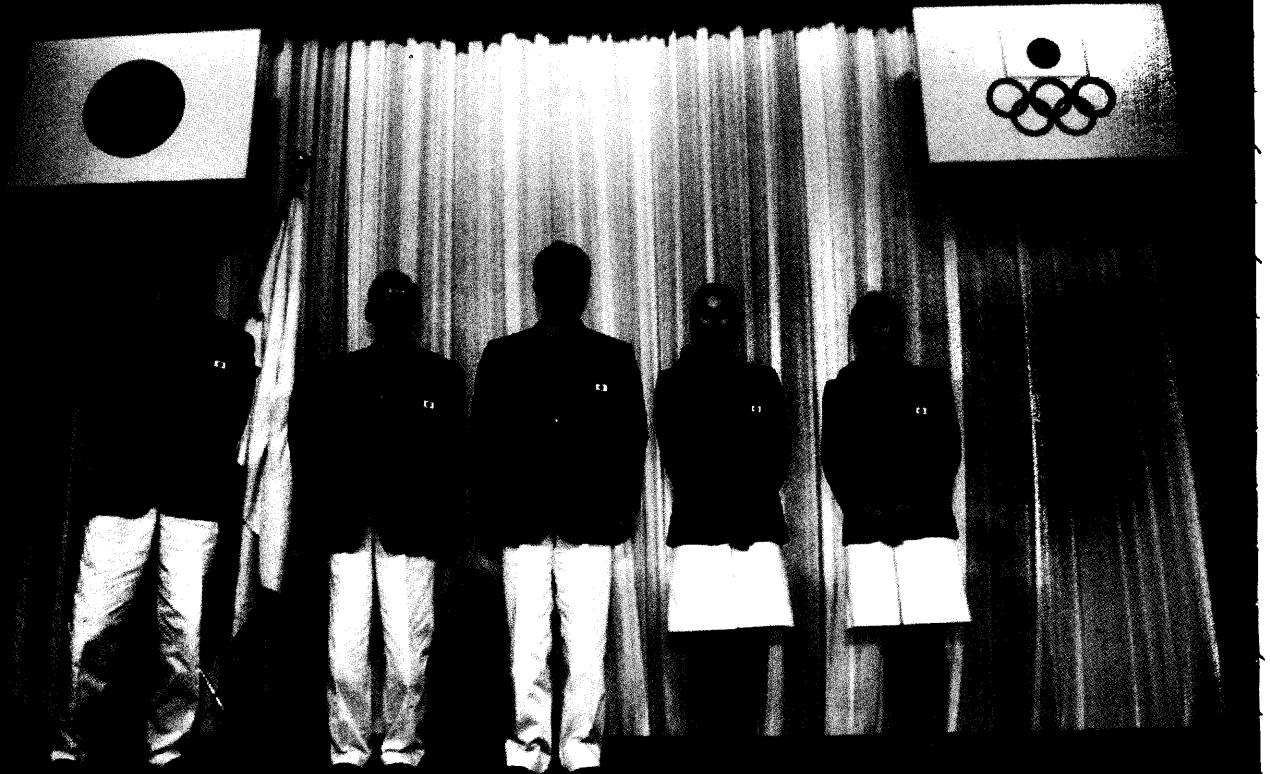


14th Asian Games
BUSAN 2002



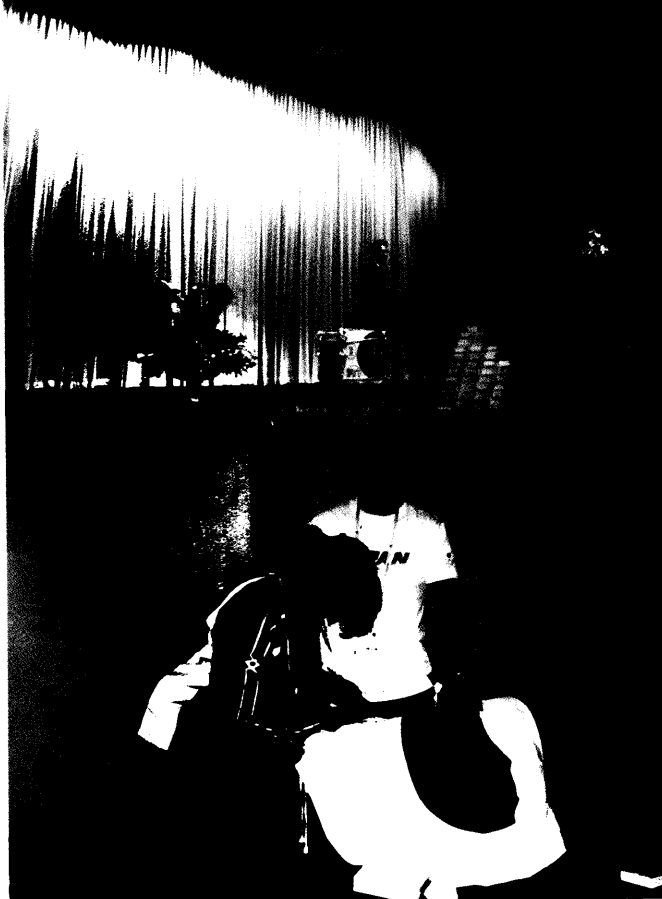
財団法人 日本オリンピック委員会
JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

第14回アジア競技大会 (2002/釜山)
日本代表選手 団結 団式



左から室伏主将、松永総監督、小掛団長、立花旗手、武田選手

JOC会長・日本代表選手団
 団長主催レセプション



選手村にて

釜山市長主催レセプション





セーリング SAILING

チームリーダー



松田 健次郎 (まつだ けんじろう) 男
①昭和10年6月23日 (67歳) ②東京都
③〒244-0004 神奈川県横浜市戸塚区小
雀町2148 ④日本大学 ⑤(財)日本セ
ーリング連盟 ⑥170cm ⑦87kg ⑧A
級コーチ

監督



小松 一憲 (こまつ かずのり) 男
①昭和23年4月9日 (54歳) ②秋田県
③〒240-0105 神奈川県横浜須賀市秋谷1-
15-10 ④日本体育大学 ⑤(株)アルフ
ァ・ウェーブ ⑥178cm ⑦78kg ⑧A
級スポーツ指導員

スタッフ



田中 一美 (たなか かずよし) 男
①昭和14年11月26日 (62歳) ②神奈川
県 ③〒236-0042 神奈川県横浜市金沢
区金沢谷東4-42-2 ④東京工業大学
⑤(財)日本セーリング連盟 ⑥164cm
⑦54kg

コーチ



山下 弘雄 (やました ひろお) 男
①昭和21年6月5日 (56歳) ②東京都
③〒244-0002 神奈川県横浜市戸塚区矢
部町871-13 ④明治学院大学 ⑤SF企画
⑥170cm ⑦73kg ⑧C級スポーツ指導
員、C級コーチ

選手



関 一人 (せき かずと) 男
①昭和50年9月11日 (27歳) ②静岡県
③〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭
5682-6-1-505 ④日本大学 ⑤関東自
動車工業(株) ⑥167cm ⑦58kg
⑧470級2位18.00



選手

轟 賢二郎 (とどろき けんじろう) 男
①昭和50年9月1日 (27歳) ②千葉県
③〒238-0023 神奈川県横須賀市森崎3-
6-1-203 ④京都産業大学 ⑤関東自動車
工業(株) ⑥174cm ⑦76kg ⑧470
級2位18.00



選手

見城 元一 (けんじょう もとかず) 男
①昭和44年3月18日 (33歳) ②神奈川
県 ③〒743-0001 山口県光市室積757
④三崎水産高校 ⑤ビザラ オーシャン
スポーツクラブ ⑥177cm ⑦72kg
⑧ミストラル級(ヘビー) 3位20.00



選手

井上 幾郎 (いのうえ いくお) 男
①昭和47年11月15日 (29歳) ②東京都
③〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷2-5-
39-A204 ④早稲田大学 ⑤関東自動車
工業(株) ⑥176cm ⑦70kg ⑧ミス
トラル級(ライト) 3位21.00



選手

大石 隆太郎 (おおishi りゅうたろう) 男
①昭和49年11月5日 (27歳) ②東京都
③〒931-8405 富山県富山市海岸通3-71
④関東学院大学 ⑤富山県高岡総合プー
ル ⑥171cm ⑦68kg ⑧レースボード(ラ
イト) 4位28.00



選手

上野 一也 (うえの かずや) 男
①昭和46年1月13日 (31歳) ②東京都
③〒984-0816 宮城県仙台市若林区河原
町2-4-29 第二若竹コーポ205 ④東海
大学 ⑤宮城県体育協会 ⑥172cm
⑦72kg ⑧レースボード(ヘビー) 4位
30.00



選手

今井 雅子 (いまい まさこ) 女
①昭和42年1月28日 (35歳) ②東京都
③〒156-0043 東京都世田谷区松原2-2-
17 ④東海大学(中退) ⑤ビザラ・オ
ーシャンスポーツ ⑥160cm ⑦55kg
⑧ミストラル級3位21.00



選手
鈴木 國央 (すずき くにお) 男
 ①昭和51年9月2日 (26歳) ②三重県
 ③〒649-8321 和歌山県和歌山市布施屋
 625 第2コーポラス南光306 ④海星高
 校 ⑤日吉染業 (株) ⑥180cm
 ⑦80kg ⑧レーザー級3位26.00



選手
佐藤 麻衣子 (さとう まいこ) 女
 ①昭和53年5月29日 (24歳) ②山口県
 ③〒441-8087 愛知県豊橋市牟呂町八王
 子90 ヴィラスクエア201 ④福岡大学
 ⑤中部ガス (株) ⑥155cm ⑦65kg
 ⑧ヨーロッパ級2位16.00



選手
飯束 潮吹 (いいつか しぶき) 男
 ①昭和63年8月23日 (14歳) ②神奈川
 県 ③〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚
 区戸塚町2820-30 ④横浜市立南戸塚中
 学校 (2年) ⑥157cm ⑦39kg ⑧オ
 プティミスト級1位14.00



選手
木内 蓉子 (きうち ようこ) 女
 ①昭和62年9月26日 (15歳) ②神奈川
 県 ③〒251-0037 神奈川県藤沢市鶴沼
 海岸1-2-18-305 ④藤沢市立湘洋中学校
 (3年) ⑥160cm ⑦47kg ⑧オブテ
 ミスト級2位19.00



ウエイトリフティング (男子) WEIGHTLIFTING (Men)



監督
菊田 三代治 (きくた みよじ) 男
 ①昭和28年4月13日 (49歳) ②石川県
 ③〒927-0603 石川県珠洲郡内浦町布浦
 ヶ字1番地 ④愛知大学 ⑤石川県立飯田
 高等学校 ⑥168cm ⑦100kg ⑧C級
 コーチ



コーチ
市場 孝士 (いちば たかし) 男
 ①昭和35年12月13日 (41歳) ②大阪府
 ③〒351-0011 埼玉県朝霞市本町2-18-
 30 ラフォーレK105 ④大阪産業大学附
 属高等学校 ⑤自衛隊体育学校
 ⑥155cm ⑦65kg ⑧C級コーチ、スポ
 ーツプログラマー



選手
菊妻 康司 (きくづま やすじ) 男
 ①昭和53年5月30日 (24歳) ②兵庫県
 ③〒156-0043 東京都世田谷区松原1-
 33-8 メゾンTOW1-C ④明治大学
 ⑤インフィニティ (株) ⑥147cm
 ⑦59kg ⑧56kg級110.0 (S110.0/
 C-)



選手
山田 政晴 (やまだ まさはる) 男
 ①昭和55年5月1日 (22歳) ②群馬県
 ③〒227-0035 神奈川県横浜市青葉区す
 みよし台3-11 日本体育大学ウエイトリフ
 ティング部合宿所 ④日本体育大学 (2年)
 ⑥155cm ⑦59kg ⑧56kg級8位
 242.5 (S102.5/C140.0)



選手
羽藤 辰雄 (はとう たつお) 男
 ①昭和51年11月9日 (25歳) ②兵庫県
 ③〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾
 14-2 ④法政大学 ⑤兵庫県立明石高等学
 校 ⑥162cm ⑦65kg ⑧62kg級6位
 275 (S122.5/C152.5)

セーリング**SAILING**

〔チームリーダー〕

松田 健次郎

〔監督〕

小松 一憲

〔スタッフ〕

田中 一美

〔コーチ〕

山下 弘雄**1. 強化として考え実施したこと**

この大会の選手強化を担当した日本セーリング連盟内のアテネ・オリンピック特別委員会は、アジア大会をアテネとリンクさせて、これを重要な大会と位置づけ、選手を含む関係者にはその旨を2年前に公表し、最大限の努力を引きだすよう工夫した。

金メダル獲得者にはナショナルチームの中でも特別の扱いをし、その後の活動を資金面で重点的に援助するという制度を設けた。これにより選手のモチベーションが高まることを期待したのだが、オリンピック種目においてはいずれも銀メダルと銅メダルに終わった。

結果として成績には不満を残す大会となったが、以下の3点に留意し、準備を進め大会に臨んだ。

(1) コーチングサポートの充実

チームリーダー：松田、監督：小松、総務担当：田中、OP級コーチ：山下、レーザー級・ヨーロッパ級コーチ：小林、ミストラル・レースボード級コーチ：前地／杉本、470級コーチ：金森、以上役員・コーチが計8名。選手は10種目で計11名。総勢19名のセーリング選手団を構成し10月3日から9日まで釜山市海雲台ヨットセンターを会場にして行われたセーリング競技に参加した。

きめ細かい選手のサポートを実施すべく前記のように多くのコーチを配置し、これらのコーチにはそれぞれ一艇ずつコーチボートを配備した。コーチの人は各選手の要望に沿うよう、日頃から選手の指導とサポートをしているコーチを優先した。そのほか選手が人選し、その選手の所属するクラス協会から推薦をとるという手順で任命した。

今回金メダルを取得したオプティミスト級は協会独自に日本での指導歴があるアルゼンチンのコーチを招聘し、その通訳をも帯同して万全の体制を敷いた。

(2) 現地での長期事前練習の奨励とサポート

88年オリンピック、2001年アジア選手権の経験を踏まえ、強い風、速い潮流、高い波といった釜山のハードコンディション対策として長期の事前練習を奨励し、これを実施した選手には滞在費の一部を支給した。

8月下旬から9月初旬にかけヨーロッパ級世界選手権（カナダ・ハミルトン）および470級世界選手権（イタリア・サルジニア）があり、これに参加した佐藤麻衣子、関・轟組は事前練習の期間が他の選手と比べ短めであったが2週間、その他の選手は国体出場のため一時帰国した選手でも20日間、長い選手で1ヵ月の現地トレーニングを実施した。

選手によっては練習パートナーを伴って調整したが、その他は地元韓国をはじめ、同じように早くから現地入りした他の国の選手との合同練習で調整をおこなった。

この長期事前練習の結果、現地での生活やその他環境に関する問題は皆無に等しかった。

(3) 早期選手決定と選手の試合スケジュールに関連した物流のサポート

2001年12月に愛知県蒲郡において2002年ナショナルチーム選考レースと兼ね合わせアジア大会代表選考を行った。

大会の10ヵ月前に選手を決定した理由は、例年実施している選手達の海外遠征スケジュールの関係から一番無理がなかったのが12月であった。釜山の強風のコンディションを戦う選手の選考を国内で実施するには安定した強風が期待できる冬期しかない。選考された選手がアジア大会に向け代表としての自覚を持って技術の向上に努め、各選手が現地での調整のスケジュールやプランをたてるためには早期の選考が必要であると考えた。

以上3つの理由から2001年12月に選考会を実施した。

それも振り返って考えれば、成功した点と反省すべき点がある。早期の選考会開催を物流との関連でいえば道具（ヨット）が大会主催者側から供給されるレーザ級とオプティミスト級を除いて、その他のクラスは船積みコンテナや空輸によって日本からあるいは海外の遠征先から運ばなければならず、事前の段取りのための時間が必要であった。幸い海外からの荷物はカナダから6メートルのヨーロッパ級のマストを運ぶだけですが、一時は470級の世界選手権が実施されたイタリアからヨットそのものを空輸で運ぶ算段をしなければならなかった。

2. レース時の海況

予想していた強風が1日もなく、微風から順風のコンディションでレースは実施された。このコンディションは本来、日本選手の得意としてきたところであり、予想がはずれたのはむしろ幸運といってよい。それだけに今回、成績が芳しくなかった選手は自らの力不足を真摯に反省しなければならない。

以下は試合が実施された当日の風速である。

10月3日…6～7 m/s 4日…3～4 m/s
7日…5～7 m/s 8日…4～6 m/s
9日…4～5 m/s

釜山特有の強い潮の流れは時間ごとに、しかも岸の近いところで複雑に変化して、あい変わらず選手を悩ませた。ボートに分乗した6人のコーチは毎日情報を持ち寄り、この特徴ある潮流に対処した。それぞれのコーチの努力により、この潮流のために日本選手だけが試合を落とすということはまずなかったと断言できる。

それに成績不振を風と波の情報不足に結びつけるのも正しいとは思えない。

3. 戦評

◆470級：関／轟選手・銀メダル

当初から韓国との一騎打ちが予想されたが、7月に行われたISAFワールドゲームにおいては大差をつけて勝っている。その時の韓国選手の走りは10m/s以上の強風で関／轟組の前を走っているものの今回の釜山のようなコンディションでは全く精彩がなかった。その後100日合宿を韓国選手が実施したとはいえ、不得意なところを克服して関／轟組に一度も前を走らせなかったというのは敵ながらあっぱれというしかない。

それにしても関／轟組の走りにはいつもの彼等のシャープさがなかった。期待もできた

し、その実力もあるチームだけに、本人達も不本意極まりないところだろう。アンラッキーなことではあるが、関選手の家族が怪我をして、試合前日まで1週間帰国したのがコンディショニングという点で大きなマイナスになったのではないかと分析する。

◆ミストラル・ヘビー級、ライト級：

見城／井上選手・各銅メダル

ヘビー級の見城選手もライト級の井上選手も後半よく追いつけた。特に井上選手は最終日まで3位につけていて1位までの得点差が3点という大接戦を演じた。両選手にとっては強風が吹けばまた違った展開になったかもしれないとの思いもあろう。

ただし、ヘビー級で優勝したインドネシアもライト級で優勝した中国もインターナショナルのレース成績はもとより、その体格やその筋肉のつき方を見ても解るが、決して微風のスペシャリストというわけではない。強風でも必ずそれなりの走りをする選手である。

アジアの男子のレベルは、世界のトップ10に入る。両選手ともに1位を何回か取り、それらの選手達としのぎを削るレベルまで到達している。謙虚に敗戦を受け止め今後の努力のばねにすべきであろう。



男子470級銀メダルの関一人／轟賢二郎の両選手

◆ミストラル級女子：今井選手・銅メダル

金メダルの香港はミストラルクラス女子の世界的な第一人者で銀メダルの中国はそれに次ぐ選手である。今回、銅ではあったが、今井選手の戦いぶりはこの2人に割って入り2人の独走を許さなかった。特に比較的強い風の時にそういった走りをしていたのは心強い。今回の3位という順位以上に試合振りというかその内容を評価したい。

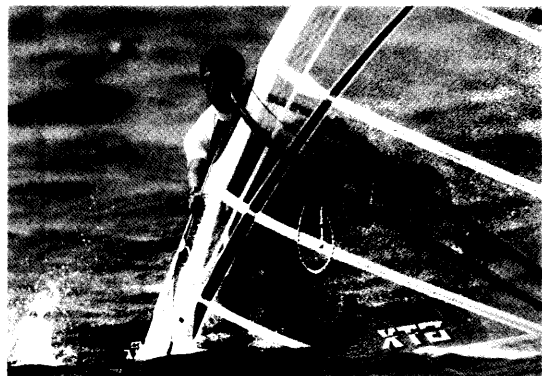
アテネを見据え、これまでどおり自信を持って練習に打ち込んで欲しい。

◆レースボード・ヘビー級、ライト級：

上野／大石選手・各4位

日頃ミストラル級のナショナルチームとして活動する上野、大石両選手がそれぞれこのクラスのヘビーとライトに分かれて参加した。10レースがおこなわれたが、上野選手は3位以上の成績を一度も取れず、大石選手も2位が僅かに1回である。3位争いをしてはいたが、内容は完敗であった。

オリンピック種目ではないという理由から選手のレベルもそれなりに低い、昨年アジア選手権においてこの種目で表彰台に上っている。それらを考えると、このクラスでここまで苦戦するというのも誤算であった。今後のさらなる精進に期待したい。



男子レースボード級で4位の大石隆太郎選手

◆レーザ級：鈴木選手・銅メダル

鈴木選手と比較し、見るからに大きな体格をしている韓国選手に微～軽風のコンディションにおいてもパーフェクトに前を走られて金メダルを取られてしまった。銀メダルのマレーシア選手とは昨年アジア選手権で接戦を演じて負け、今年の世界選手権においては僅かながら勝っている。

アテネを考えるとこのマレーシアの選手と接戦をするレベルから早く抜け出し、大きく飛躍するよう努力をしてほしい。

◆ヨーロッパ級：佐藤選手・銀メダル

世界のトップランキングの選手である中国が圧倒的に強く、パーフェクトなレース内容で金メダル。これに次ぐ銀メダルではあったが、3位のマレーシアの選手のレベルを考えると当然の結果といえる。

中国選手との力の差は単に1位と2位の差ではなくその隔たりは大きい。体型的に小さいということに逃げ道を作らず、スケートの清水選手のお手本もある。アスリート一般の努力をして高い目標に向かって行くよう期待する。

◆オプトミスト級男子：飯東選手・金メダル

女子：木内選手・銀メダル

男女とも試合日程中盤までの苦戦から見事

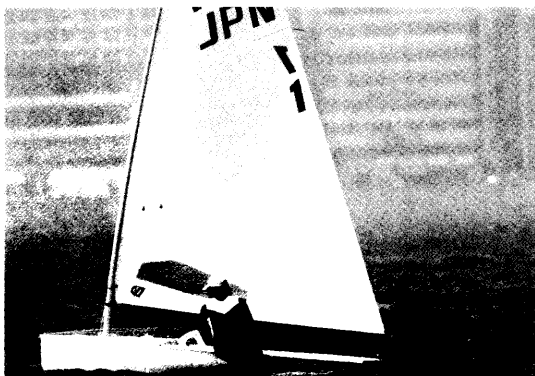
に抜け出した。金メダルを獲得した飯東選手の後半戦は他を圧倒する内容で、見事の一言に尽きる。6レース以降、全てトップというのは快挙といってよい。

この男子の好調に呼応するかのようになり、女子の木内選手の後半の走りも良くなった。ちょっとしたきっかけで走りが見違えるほど変化する今回のケースを成功例として大切にしていきたい。この種目での金メダルは12年振りである。

前回の金メダリスト・関選手は今大会の470級の代表として参加し、現在は日本のナショナルチームのトップランキングの選手として成長している。出場資格が15歳までという特異なこの種目に男女2つの出場枠を与えてくれたJOCに感謝し、この選手達を見守り立派に成長させるのはセーリング連盟の責務であると認識する。



女子オプトミスト級で銀メダルの木内蓉子選手



女子ヨーロッパ級で銀メダルの佐藤麻衣子選手



男子オプトミスト級で金メダルを獲得した飯東潮吹選手

4. 総括と今後の強化活動

当初の目標は金3、銀3、銅2であったが、実際は金1、銀2、銅4という結果となり、少なからずの敗北感を感じる。参加国が少なく種目として成立しなかった470級女子と、まさかの敗北を喫した470級男子に誤算があった。12年前まで、日本はダントツでアジアのセーリング界をリードしていた。それが今日、他のスポーツ同様、中国と韓国の陰に隠れそうなところまできている。

ただし、今回代表として出場できなかった470級の選手の中に今年急成長をして国別9位という成績でオリンピック出場枠を取ったチームがいる。女子の470級も国際ランキングでは10位に位置づけられているし、それと同レベルの選手が他に2チーム存在する。

今回金メダルを獲得したオプティミスト級には同レベルの選手が少なくとも2名いる。ということで将来楽しみなジュニアの種目と2人乗りの種目に限っていえば層の厚さにおいて韓国と中国に追従を許さないという自信がある。この自信を頼りにアテネまで立案した強化の4年計画をしっかりと足元を見据えて実行していきたい。

2003年は、有望種目とそうでない種目を見極め、支援する種目を絞ったところで国内において世界のトップランキングの選手を招待して長期の合同合宿を実施する。そのうえで海外遠征を積極的に奨励しレーシングテクニックの研鑽を目標にして武者修行に選手を送り出す。

日本選手の活路を身体能力の向上に見出し、この2年間、選手やコーチにそれを説いてきた。これが間違っていないことを皮肉にも韓国と中国に負けたことで再確認できたように思う。

(監督：小松一憲)

〔選手村の生活〕

今回の選手村は、セーリング競技会場から車で北へ20分ほどのところにあった。21階建ての集合住宅が広い敷地に十数棟建っていて通路も広く、数箇所ある公園（広場）もゆったりしていた。しかも駐車場が地下にあり、それもすっきりした印象を倍加させていた。アジア大会終了後は分譲され倍率はかなり高いとのことである。

選手村には約8,500人の各国役員・選手が生活していた。1ユニット約140m²の3LDKに7人入居したが、新築でグレードの高い住宅であったため快適に過ごせた。

食事は基本的に3食選手村の食堂を利用したが、ロッセホテルのシェフが作る料理はカフェテリアスタイル（セルフサービス）の洋食が主体で、各種キムチなど韓国料理も選べた。朝昼晩のメインは時間が決まっているが、24時間軽食・飲料などサービスを受けられた。因みにこの食堂はエアドームタイプで一度に3,000人に収容できる大きな建物である。

アジア各国の選手達がそれぞれのユニホームで集まってくる開会式から数日の競技の最盛期は、熱気と話し声でドーム全体がワーンと反響していた。

選手村から競技会場へはバスで移動した。朝、夕はバスのダイヤも完備していたが、日中はバス便がなくタクシーで移動した。タクシー料金は日本の約1/4から1/5である。

昼食は前日予約したランチボックスが競技会場に届けられ、ペットボトル入り飲料水、氷などもサービスされたが、バス便ともにシステムが落ち着いて機能したのが開会式前後であった。

韓国の大学生、ご老人を主体とした日本語の通訳の方々も親切で、選手村の生活も快適に過ごせた。

(スタッフ：田中一美)

表2 日本代表選手団編成数

No.	区分 競技名/Sports	選手/Athletes			役員 Officials	合計 Total	エキストラ オフィシャル Extra Officials
		男子 Men	女子 Women	小計 Sub Total			
1	陸上競技/Athletics	36	30	66	10	76	6
2	水泳/Swimming	35	19	54	11	65	7
	競泳/Swimming	(20)	(13)	(33)	(8)	(41)	(3)
	飛込み/Diving	(2)	(4)	(6)	(1)	(7)	(1)
	シンクロナイズドスイミング/Synchronized Swimming	-	(2)	(2)	(1)	(3)	(1)
	水球/Waterpolo	(13)	-	(13)	(1)	(14)	(2)
3	サッカー/Football	20	18	38	7	45	12
4	テニス/Tennis	5	5	10	2	12	4
5	ボート/Rowing	12	6	18	3	21	2
6	ホッケー/Hockey	16	16	32	7	39	2
7	ボクシング/Boxing	5	-	5	2	7	1
8	バレーボール/Volleyball	16	14	30	8	38	4
	バレーボール/Volleyball	(12)	(12)	(24)	(6)	(30)	(4)
	ビーチバレー/Beach-Volleyball	(4)	(2)	(6)	(2)	(8)	0
9	体操/Gymnastics	6	10	16	7	23	7
	体操競技/Artistic	(6)	(6)	(12)	(5)	(17)	(6)
	新体操/Rhythmic	-	(4)	(4)	(2)	(6)	(1)
10	バスケットボール/Basketball	12	12	24	8	32	3
11	レスリング/Wrestling	14	3	17	4	21	6
12	セーリング/Sailing	8	3	11	4	15	4
13	ウェイトリフティング/Weightlifting	7	5	12	4	16	0
14	ハンドボール/Handball	16	16	32	6	38	6
15	自転車/Cycling	19	9	28	5	33	7
16	ソフトテニス/Soft Tennis	5	5	10	3	13	5
17	卓球/Table Tennis	5	5	10	3	13	2
18	馬術/Equestrian	9	3	12	3	15	15
19	フェンシング/Fencing	9	6	15	3	18	3
20	柔道/Judo	8	8	16	5	21	6
21	ソフトボール/Softball	-	15	15	4	19	1
22	バドミントン/Badminton	5	6	11	3	14	2
23	射撃/Shooting	12	14	26	5	31	6
	ライフル射撃/Rifle&Pistol	(9)	(7)	(16)	(2)	(18)	(4)
	クレー射撃/Clay Target	(3)	(7)	(10)	(3)	(13)	(2)
24	近代五種/Modern Pentathlon	4	0	4	1	5	1
25	ラグビー/Rugby	26	-	26	5	31	3
26	カヌー/Canoeing	9	5	14	3	17	0
27	アーチェリー/Archery	4	4	8	3	11	0
28	空手道/Karatado	2	3	5	3	8	1
29	ボウリング/Bowling	6	6	12	3	15	1
30	野球/Baseball	22	-	22	4	26	3
31	武術太極拳/Wushu	5	4	9	2	11	1
32	テコンドー/Taekwondo	0	0	0	0	0	0
33	ゴルフ/Golf	4	3	7	2	9	1
34	セバタクロウ/Sepak Takroaw	5	6	11	2	13	2
35	カバディ/Kabaddi	12	-	12	2	14	0
36	スカッシュ/Squash	1	2	3	1	4	0
37	ビリヤード/Billiards	9	-	9	3	12	2
38	ボディビル/Bodybuilding	8	-	8	2	10	1
	本部/Headquarters Officials	-	-	-	32	32	4
	メディカルスタッフ/Medical Staff	-	-	-	11	11	0
合計		397	261	658	196	854	131

※本編成数にアタッシェ1名は含んでおりません。